

せず、結局露店ならば許可すべしと云ふ事に決し久留氏は其旨を各争議團に通告したり。斯く持久の方畧既に定まりたれば各争議團に於ても夫々之が具體方法に關して協議を行ひたり。川崎争議團聯合本部に於ては十六日午後八時より最高幹部會を開き持久戰に對する用意として聯合本部の組織、運動會の件、最高幹部以外の者の本部に入場の可否、同無届缺席問題、争議保安係を認むるの件、誠首職工の生活保證の件、二十日の給料受取の件、通學兒童に就き停學せしむるの件、罷工職工行商隊の件その他を附議したるがこの中通學兒童の停學は職工家族に取りて又社會教育に就ての大問題なるため慎重審議せしが決定を見ず散會したり。三菱争議團に於ても同様に結束方法、持久資金問題、檢束者に對する慰問方法等に關し協議する處ありたり。

爾來兩争議團は聯合して連日日程の運動會等を行ふ一方、各罷業職工の結束を鞏固にする事に努め行商隊を組織して軍資金の調達を計り同時に檢束者の家庭に對しては慰問委員を派して慰籍の方法を講ずる事となれり。

然れ共當局の干渉の手は一向に緩まず、日々新たな檢束者を出し、一方會社側の結束切崩し運動は著々として進行し首謀者誠首、軟化者誘惑等の有ゆる手段は講せられむとして罷業團の前途は必ずしも樂觀するを許されざる状態にありたり。

九、川崎造船所の大誠首

本邦未曾有の労働争議に對する威壓の手は凡ゆる方面より漸く峻烈に加へらるゝに至り、連日官憲が頻りに檢擧の巨手を伸ぶる一方に於て會社側の切崩し運動に伴ふ大誠首は漸行せらるゝに至れり。「休業十日間は日給半額を支給するも、休業期を經過して尚秩序回復の見込なく更に休業を繼續する場合に於ては全然手當を支給せざる」旨を全職工に高壓的に通告し、一方守衛をして職工自宅を訪問せしめ切崩し策を講じつゝ、ありし川崎造船所に於ては、曩に二回職工側幹部の誠首を行ふ處ありしが十七日夕に至り、又復本工場及兵庫、葺合兩分工場に亘り友愛會系に屬し争議の陣頭に立ちて一般罷業職工督勵の地位にありし委員百三十餘名を一齊誠首の舉に出で同日附を以て「會社の都合に依り解雇す、尙解雇手當貸銀並に十八日から向ふ十四日間の給料は十九日午前十時工場會計係に於て支拂ふ」旨書留郵便にて通知したり。

尙右の誠首せられしもの、中、平素社會主義を口にし其筋の要視察人となり居たる者には解雇手當支給の項目削られたり。被解雇者の氏名左の如し。

電氣工作部 草加春太郎、松本龜吉、若原芳政、増野覺一、谷市太郎、宮内克讓、岩本龜吉、黒川與三郎、中野二郎、丹崎永一、申嘉増二、石橋虎一、淺田憲三、輪島與三松、池田市次郎、石原智、佐藤平治、益本政夫、加太仙太、露本美代治、森下榮三郎、西田鎮達、青柿一良、濱崎鐵太郎、下田傳、根津彌太郎、松本安太郎、大垣令一、竹廣梅太郎